実務家教員の実践経験を効果的に活用するには
― 学生の声からの考察 ―

髙橋 雅人[a]

[a] 湘北短期大学保育学科

【抄録】

筆者は、児童福祉の実務経験者として教員となり３年が経過した。この間授業では、自身の実務経験を活用し、児童福祉現場の諸問題を伝える実践的教育を重要視してきた。しかし、筆者の授業が実践経験を伝えることに特化していると学生から指摘されたことを契機に、自身の授業の省察に取り組むことにした。本稿では、保育学科の２年生対象にアンケート調査を実施し、授業で伝えてきた実践経験談の評価を得ることにした。その評価をもとに、実践経験の効果的な活用について考察した。

【キーワード】

実務家教員、実践経験、実践エピソード、学生の声

1. 実務経験者の教育課題

実務経験者が大学にて教育することについて、近年ではとくにその実践経験に期待が集まっている。その理由として、実務経験者が現場の知見を活用し、社会で役立つ実践力を身につけた人材養成を担えることが挙げられている[(1)]。自身の長年にわたる実務経験を携え、大学で教育や研究を行うものを実務家教員と呼ぶ。2020年4月から導入された高等教育の修学支援新制度では、この制度の対象となる高等教育機関（大学等）に、機関要件として一定数以上の実務家教員（実務経験のある教員）による授業科目の配置が義務付けられた[(2)]。このように、実務家教員の役割は重要視されている。

しかし、実務家教員の教育について、文部科学省中央教育審議会の大学分科会に設置された、制度・教育改革ワーキンググループでは、「実務家教員について、実務がたけているからといって教育力が十分であるということは、必ずしもいえない場合もある[(3)]」という提言がなされた。つまり、実務家教員の経験が、即専門的な知見として教育場面で発揮できるほど容易なことではないという指摘である。

教壇に立てば、実務経験者は現場の実務者ではなく教員であるため、教育力の向上は不可欠である。とくに、社会で役立つ実践力を身につけた人材養成を担う立場である以上、実務で培った実践経験を学生の実践力となるように還元しなくてはならない。

したがって、実務家教員は教育力の向上に真摯に取り組まなければならないのである。

２. 問題提起

筆者は、東京都特別区、および東京都の福祉行政職（1991年4月から2016年3月の勤務期間に障害者支援施設、児童自立支援施設、児童扶養手当担当、大型児童館、児童相談所一時保護所などで勤務）を経て、2019年4月に湘北短期大学に入職した。担当は、保育士資格取得に関連する主に福祉系の教科、施設実習（保育実習Ⅰ・Ⅲ）に関連する教科を受け持っている。また、本学教育課程審議会にも実務家教員として参加している。

この間授業では、実務経験で培ってきた知見を活用し、児童福祉現場の諸問題をエピソードとして紹介してきた。加えて、ペアワークやグループワークでの討論、問題解決力を養う事例研究なども取り入れてきた。このような実践経験にもとづいた授業の評価は、授業評価アンケート[注1)]に自由意見（学生の声[注2)]）として集約されている。

授業評価アンケートに寄せられていた学生の声には、「実体験を聞くことができて有意義だった」という肯定的な記述が多かった。その一方、「先生の過去についての話が長くなってきたように思います」のように、否定的な声も寄せられていた。さらに、実践経験をもとにした事例研究を行った際には、「経験がないからわかりませんでした」という率直な感想が寄せられていたこともあった。

こうした否定的な学生の声から、「私の授業は実践経験を伝えることを価値としていたのでは」という問題意識が生じたのである。

そこで本稿では、実践経験を伝えることを価値としていた授業の評価を学生に問うことにした。その結果から、実践経験を効果的に活用する方法を考察していきたい。本稿は、一実務家教員の授業を省察したものであるため方向づけるものではない。実践経験談が、学生に与える影響について集約した結果、および考察について報告する場としたい。

なお、授業内で実践経験を伝える際に「実践エピソード」と称している。そのため本稿でも同様に表記するものとする。

３. 先行研究

実務家教員の実践経験をテーマにした先行研究をCiNiiで検索した。「福祉」および「実務家教員」をキーワードに検索すると、6件が抽出された（2022年1月15日現在）。6件は薬学、医療、教育学分野であり児童福祉分野に該当する研究は含まれていなかった。

渡邊ほか（2020）は、教員のインタビューと講義を受けた学生の記述から、担当教科の実践を評価することを目的とした研究を行っている[(4)]。保育分野の実務家教員に該当する研究は上記のみであり、担当教科である「乳児保育Ⅱ」に限定したものであった。

４. 実践エピソードの評価

実践エピソードの評価を得るため、2020年度保育学科入学学生（現2年生）を対象に質問紙によるアンケート調査を実施した。

・アンケート回答者、2020 年度保育学科入学学生（現 2 年生）。
・回答者数 135 名、欠席者 7 名、未提出者 1 名、回収率 94.4％。
・実施日 2021 年 12 月 20 日。
・設問は 7 項目（表 1）。
・設問 7 項目の設定理由は、フィードバックペーパー[注 3)]の内容や、授業時の学生の反応から問いかけたいことを選定した。アンケートの集計は単純計算による。あわせて、各設問に寄せられた自由記述を抜粋する。

表１ アンケート用紙

設問　教員の現場経験にもとづく授業についてアンケートにご協力ください（教員＝髙橋のことです）。無記名でお願いします。成績には反映しません。文章として公開する可能性もあります。調査が終了しましたら本アンケートは廃棄いたします。				
１．教員の体験談は、保育士を目指すあなたにとって役に立ちましたか。				
①とても役に立った	②役に立つ内容もあった	③普通	④まったく役に立たなかった	⑤わからない
２．教員の体験談は、施設実習に行く際に役立つことがありましたか。				
①とても役に立った	②役に立つ内容もあった	③まったく役に立たなかった	④実習に行く前に話をされてもイメージがわかなかった	⑤覚えていない
３．教員の体験談は、実務経験がなくても現場の想像ができましたか。				
①十分想像できた	②内容によって想像できた	③想像できなかった	④もっと話を聞きたかった	⑤わからない
４．体験談より法律や制度などに重点をおいた授業の方がよかったですか。				
①はい	②半分半分にしてほしい	③いいえ	④どちらでもよい	⑤わからない
５．教員の体験談を聞いて福祉（保育）現場は厳しいと思いましたか。				
①厳しいと思った	②内容によって厳しいと思った	③まったく厳しいと思わなかった	④実習の方が厳しいと感じた	⑤厳しい話はしてほしくなかった
６．教員の体験談を聞いて福祉（保育）現場はやりがいがあると感じましたか。				
①やりがいがあると感じた	②内容によってやりがいがあると感じた	③まったくやりがいは感じなかった	④実習の方がやりがいを感じた	⑤わからない
７．教員の体験談を効果的にするためには次のどれを行うべきですか。				
①事例研究（ケーススタディ）	②解決方法を学ぶロールプレイ	③視聴覚教材（DVDなど）との併用	④ペアワークやグループワーク	⑤わからない
※ほか、体験談に関して意見がある方は自由にお書きください。				

まず、回答者である学生にアンケート調査の目的を説明した。

「現場の体験談を授業で活用することについて見直すことにしました。その資料を集めるためにアンケートの協力をお願いします。皆さんは2年間にわたって私の福祉系の授業を受けてくれました。授業では私の実践にもとづくエピソードを数多く聞いたことと思います。私が授業内で伝えたエピソードがどの程度皆さんに影響を与えたかを調査するものですので、率直な回答をお願いします」。

さらに、個人が特定できないよう無記名にし、成績評価には反映しないこと、調査の結果は公開する可能性があること、調査終了後に本アンケートは廃棄することを説明し、配布したアンケート用紙にも記載した。

⑴ 評価結果と考察

本節では、各設問の評価結果から課題を考察してみたい。なお、学生の自由意見は、「　　」内にゴシック体で表記し原文を掲載した。

設問１：教員の体験談は、保育士を目指すあなたにとって役に立ちましたか。

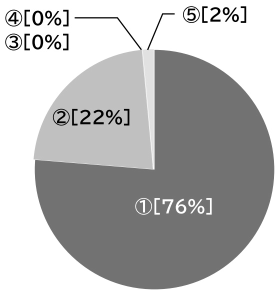

図1：体験談は役に立ったか

選択肢①「とても役に立った」76%
選択肢②「役に立つ内容もあった」22%
選択肢③「普通」0%
選択肢④「まったく役に立たなかった」0%
選択肢⑤「わからない」2%

実践エピソードについて98%の学生が、「とても役に立った」「役に立つ内容もあった」と有意義に捉えている結果が示された。

自由意見には、**「ほかの授業では聞けないようなお話をたくさん聞けてとても面白かったです」、「体験談を聞くことができて楽しかったです。興味がとてもわいたのでよかったです」、「体験談は、あまり聞くことのできない貴重なものなのでとても勉強になりました。これからも沢山の話を聞きたいです」、「体験談は自分の知識の幅を広げられる内容だと思います。これからも続けてほしいです」**のように、興味や関心を持ったという多くの声が寄せられていた。

今後も、実践エピソードを授業に取り入れていくことが望ましいということが、評価および自由意見から推察できる。

しかし、年数の経過とともに実践経験は風化してしまうおそれがある。学生に有意義な実践エピソードを提供するためには、新しい現場の情報を習得していかなければならないのである。

設問２：教員の体験談は、施設実習に行く際に役立つことがありましたか。

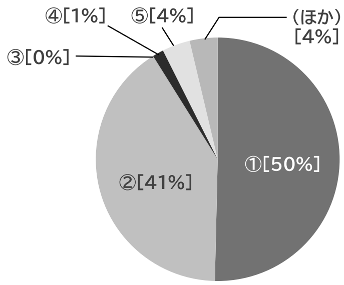

図2：体験談は施設実習に役立ったか

選択肢①「とても役に立った」50%
選択肢②「役に立つ内容もあった」41%
選択肢③「まったく役に立たなかった」0%
選択肢④「実習に行く前に話をされてもイメージがわかなかった」1%
選択肢⑤「覚えていない」4%

91%の学生は、実践エピソードが施設実習に行く際に役に立ったと回答した。

回答結果から、選択肢③「まったく役に立たなかった」が０であることに注目した。

筆者の担当教科は、施設実習のための授業ではない。しかし、学生は教科に関係なく実践エピソードから施設実習の知識を習得したいと思っていることが確認できた。

自由意見には、**「１年生の頃は施設が気になっていたので、他の先生から聞けない話を聞けて良かったです」、「体験した話など施設実習ですごい役に立ちました。実習中ノートを持っていって何度も見返しました」**のように、実践エピソードが役に立ったという声が寄せられていた。また、**「私はコロナ禍で施設実習が中止となっていたので、現場の様子が想像することのできる体験談が含まれた先生の授業を受けることができてよかったです」**という声も寄せられていた。

この結果から考察できることは、既存の教科内

で学生の知識習得に応じる授業の工夫が求められているということである。

選択肢にはないが、4%の学生が実習中止になったことを欄外に記載したため「ほか」とした。

設問３：教員の体験談は、実務経験がなくても現場の想像ができましたか。

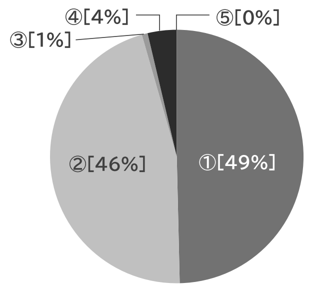

図3：体験談は実務経験がなくても想像できたか

選択肢①「十分想像できた」49%
選択肢②「内容によって想像できた」46%
選択肢③「想像できなかった」1%
選択肢④「もっと話を聞きたかった」4%
選択肢⑤「わからない」0%

99%の学生が、実務経験がなくても現場の想像ができたと肯定的な回答を示した。

自由意見には、**「先生の話を聞いて施設就職を視野に入れました。ありがとうございました」、「先生のお話を聞いて福祉関係への興味がより深くなりました。実習を通して納得する部分も多く授業が楽しかったです。就職は福祉関係ではありませんが、まだ興味があるので機会があったらと思っております。新しい道（職）を教えてくださりありがとうございました」**という施設や福祉関係の就職につなげてみたいという声が寄せられていた。

このような学生の声から考察できたことがある。それは、実践エピソードは施設や福祉全般への興味、関心が向けられただけではなく、職業選択の幅を広げるほどの影響を与えているということである。実践エピソードが学生に与える影響は、学生の進路選択にまでおよぶほど重要なことであると心がけなければならない。

設問４：体験談より法律や制度などに重点をおいた授業の方がよかったですか。

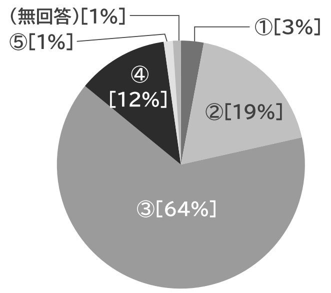

図4：法律や制度に重点をおいた方がよいか

選択肢①「はい」3%
選択肢②「半分半分にしてほしい」19%
選択肢③「いいえ」64%
選択肢④「どちらでもよい」12%
選択肢⑤「わからない」1%
無回答　1%

自由意見には、**「難しい制度の話ばかりではなく、体験談を含みながら授業を進めてくれたのでより具体的にどのようなことが現場で行われているのか、子どもとどのように関わりがあるのか、また難しい制度をどのような場面で使うのか具体的に理解することができました」**という声が寄せられていた。

法律や制度など難解とされる領域の理解には、実践エピソードが十分な効果を発揮したことが考えられる。

今後も実践エピソードを併用し、法律や制度の理解を深めていく工夫に取り組みたい。

設問５：教員の体験談を聞いて福祉（保育）現場は厳しいと思いましたか。

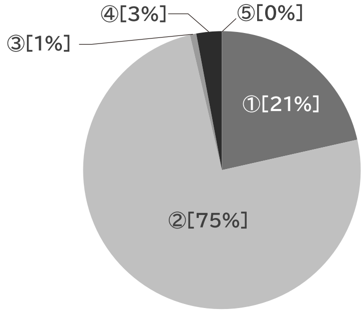

図5：福祉（保育）現場は厳しいと思ったか

選択肢①「厳しいと思った」21％
選択肢②「内容によって厳しいと思った」75％
選択肢③「まったく厳しいと思わなかった」1％
選択肢④「実習の方が厳しいと感じた」3％
選択肢⑤「厳しい話はしてほしくなかった」0％

96％の学生が、実践エピソードを通じ、現場は厳しいと感じたと回答した。

福祉（保育）現場の厳しさについての自由意見は寄せられていなかった。そのため、数値からの考察になるが、実践エピソードの内容がマイナスイメージを連想させる失敗談を多用していたことが推察できる。実践経験は、一般化されていない自分だけが体験した実践知である。そのため、実践エピソードの内容に注意しなければ価値観を押しつけてしまう危険性がある。

今後は、学生のマイナスイメージになるエピソード内容を避け、「現場は厳しいこともあるががんばってみたい」という、プラスイメージになるようにつなげていきたい。

設問６：教員の体験談を聞いて福祉（保育）現場はやりがいがあると感じましたか。

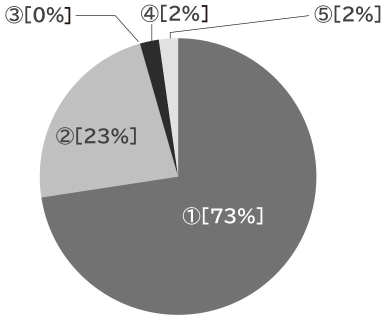

図6：福祉（保育）現場のやりがいを感じたか

選択肢①「やりがいがあると感じた」73％
選択肢②「内容によってやりがいがあると感じた」23％
選択肢③「まったくやりがいは感じなかった」0％
選択肢④「実習の方がやりがいを感じた」2％
選択肢⑤「わからない」2％

95％の学生が、実践エピソードを通じ、現場にはやりがいがあると感じたと回答した。

学生の自由意見には、**「ぶどうの木で登場した少年の印象がとても私の中で残っています。自立して里親の両親に恩返しするために、中学卒業後、自分で働いてお金を稼ぐ姿に私自身とても感動し、その男の子のように誰かのために役立てられる人間になりたいと改めて思いました」**のように、具体的な授業内容に言及した声が寄せられていた。

『ぶどうの木(5)』は教材として使用した書籍であり、作中に登場する少年は筆者の教え子である。彼の生い立ちやさまざまな葛藤、生活の様子などをエピソードとして学生に提供した結果、福祉（保育）現場のやりがいを感じ取ってくれたと考えられる。

福祉（保育）現場のやりがいを伝えることも、人材養成という観点から実務家教員の役割と言えるのではないだろうか。

設問７：教員の体験談を効果的にするためには次のどれを行うべきですか。

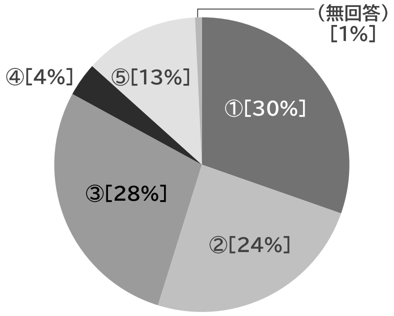

図7:体験談を効果的にする方法

選択肢①「事例研究（ケーススタディ）」30%
選択肢②「解決方法を学ぶロールプレイ」24%
選択肢③「視聴覚教材（DVD など）との併用」28%
選択肢④「ペアワークやグループワーク」4%
選択肢⑤「わからない」13%
無回答　１%

筆者の各担当教科では、実践のシミュレーションとして、選択肢①「事例研究（ケーススタディ）」を頻繁に取り入れている。また、新型コロナウイルス感染症の影響がない時は、選択肢②「解決方法を学ぶロールプレイ」や選択肢④「ペアワークやグループワーク」を導入している。さらに、選択肢③「視聴覚教材（DVDなど）」も適宜取り入れている。

自由意見には、**「難しい内容のはずなのに理解しついていくことが出来たのは授業の進め方が合っていたのだと思いました。教科書だけではなく実体験や事例、DVDで進めて下さったので分かりやすくイメージすることが出来たのだと思います。施設実習ではなく学校内での演習**[注4]**だったため現場を見ることは出来ませんでしたが、この授業のおかげでよい学びを得られました」**という声が寄せられていた。

このような学生の声から、事例研究や視聴覚教材、各種のディスカッションなどを併用することで、実践エピソードの効果が高まることが示唆された。

アンケートの評価、および自由意見から考察したことを整理する。

学生は、実践エピソードを肯定的に受け取っていることが、評価結果および自由意見から明らかになった。この結果は、実践エピソードを通して知識の習得をしたいという、学生の期待の高さと捉えることができる。

さらに、実践エピソードは、学生の福祉の価値観を形成するほどの影響があることがわかった。

以上の考察により、実践経験を効果的に活用する今後の方向性を導くことができたのは、本研究の成果であると言える。

今後、学生の期待に応じるよう授業を工夫し、実践経験に固執せず新たな知見を習得していかなければならない。

５. 実践エピソードの効果的な活用について

本稿は、筆者の授業が実践経験談に特化していると、学生から指摘を受けたことにより省察が始まった。そこで、学生の声を集約し分析を試みるために、アンケートを実施し、実践エピソードの効果的な活用を考察することにした。

総じて、実践エピソードは学生から高評価を得ていた。そのため、今後も継続して授業で取り入れたいと考えている。学生からの肯定的な意見が多いからと満足することなく、新たな知見を得ることを目指したい。

まとめとして、実務家教員の実践経験を効果的に活用する方法を2点述べたい。

まず1点目は、実務家教員の実践経験を土台に新たな知見を重ねていくことである。

長年携わった実務であっても現場感覚は薄らい

でいき、現在の学生や現場の事情には適応しがたくなってしまうのである。

先述した、文部科学省中央教育審議会の大学分科会に設置された、制度・教育改革ワーキンググループでは、「実務家教員として採用されて以降、相当期間（例えば10年以上）経過した場合は、大学において実務家教員として高度の実務能力を有するものであることを確認することが望ましい旨試行通知等で周知してはどうか(6)」という提言がなされた。

筆者の専門領域である児童福祉分野でも課題は日々変化し、それに対応する現場も進化している。以前勤務していた児童相談所一時保護所では、虐待が疑われる子どもを一時保護するべきか判断する際に、人工知能（AI）を活用する動きが高まっているという。児童虐待と向き合う現場のベテラン職員を補完することがその理由の一つとされている(7)。しかし、筆者が一時保護所で勤務していた時代には、テクノロジーに頼ることなど考えもしなかった。

現場から離れる期間が長くなるほど、新たな取り組みに注視しなくてはならないことがわかる。

実務家教員は研鑽し、実践経験を土台に新たな知見を重ね、時代に合致した実践エピソードを作り上げていかなければならないのである。

2点目は、実践エピソードをアクティブラーニングに進化させることである。

学生は、実践エピソードから現場の知見を習得したいと思っていることが、アンケートの評価から明らかになった。また、実務家教員は現場の最先端の知見を活用し、実践力を身につけた人材を養成する役割がある。そのためには、学生が主体的、能動的に学習し問題解決力を養えるようにしていかなければならない。

アクティブラーニングを重視するのは、経験を伝えることを価値としていた筆者の問題意識を忘れないためでもある。まずは、事例研究（ケーススタディ）や解決方法を学ぶロールプレイ、視聴覚教材などを併用し、実践エピソードが一方的にならないような工夫を重ね、社会で役立つ実践力を身につけた人材養成に取り組んでいきたい。

6. 今後に取り組みたいこと

今後に取り組みたいことは、筆者の実践エピソードが最も発揮できる教科である、「社会的養護」に寄せられた学生の声からの考察を試みたい。

「社会的養護」は、さまざまな保護者の事情（虐待、疾病、障害、死亡など）でともに暮らすことができなくなった児童を児童福祉施設や里親などの社会で養育する仕組みを学ぶ教科である。

本教科の選択理由は、2020年度入学学生が第1回授業後に提出したフィードバックペーパーに記入されている。

- **「短大に入るまで児童相談所や乳児院について詳しいことは知らなかったし、そこに当てはまる子どもたちの現状も考えたことがなかったけれど、そういう子どもたちとの向き合い方や保育士として何ができるかと、とても考えさせられるなと感じました」。**
- **「科目の社会的養護とは何かわからなかったけれど、社会全体として保護や援助することだと理解できました」。**

このように、「社会的養護」は学生の知識が未習得の状態から始められる教科である。したがって、実践エピソードから専門的知識を身につけることができているか、その成果をはかるには適した教科と言えるのである。

今後は、「社会的養護」の授業に寄せられた学生の声を一つでも多く集約し、実践エピソードの効果を分析していくことを最優先に取り組むべき課題としたい。

謝辞

本稿の執筆にあたり、アンケートに協力してくれた保育学科2年生に感謝いたします。湘北短期大学で身につけた実践力を保育、教育現場で存分に発揮してください。

注釈

注1）授業評価アンケート

授業評価アンケートは、学生が受講した教科を評価する制度である。全11項目からなり、学生はGoogleフォームから評価をする。教員の自己点検の一環である。

注2）学生の声

学生の声から省察が望めることについて、実務家教員である佐藤（2020）は次のように述べている。

「教員は自らの授業を実施している途中、あるいは実施した後に、何らかの気づきがあるはずである。例えば、授業中の学生の様子を観察する中で、学生の表情が曇ったり、眠そうな学生が増えたり、反応が薄かったりということに気づくことがある。あるいは学生の書いたコメントシート、そしてテストやレポートの結果から、理解度が不足していることに気づくこともある。こうした気づきを深く分析することで、自らの授業の課題・問題点と解決策を見いだす(8)」。

注3）フィードバックペーパー

フィードバックペーパーは、毎回授業後に、その日学んだことを学生自身が振り返ることを目的とし記入をお願いしている。

教員側からの質問項目は、①「授業態度の自己評価（5段階）」、②「授業のポイントや疑問があれば記入」の2つである。また、授業の感想や自由意見なども寄せられている。フィードバックペーパーは、e-ラーニング上にスマートフォン（パソコンも可）から入力できるようになっている。提出を義務とはしていないが、ほぼ全員が毎回提出している。また、筆者はコメントの返却を責務としている。

注4）学校内での演習

厚生労働省は、新型コロナウイルス感染症の流行に伴い、保育実習Ⅰ（施設）が中止となった場合や実習施設の確保が困難である場合には、施設実習に代わる演習や学校内での実習を認めた(9)。本学では、「学内演習」や「学校内演習」と呼称し、2021年2月から3月に実施した。

引用・参考文献

⑴ 実務家教員COEプロジェクト（2020）『実務家教員への招待 人生100年時代の新しい「知」の創造』，学校法人先端教育機構 社会情報大学院大学出版部，PP.4-5.

⑵ 文部科学省（2020）「高等教育の修学支援新制度について」（https://www.mext.go.jp/content/20201023_mxt_sigakugy_1420528_00002_00003.pdf.2022.1.8閲覧）.

⑶ 文部科学省（2017）「制度・教育改革ワーキンググループ（第7回）議事録」（https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo4/043/siryo/1403047.htm.2022.1.8閲覧）.

⑷ 渡邊悦子・石田みどり・佐野眞弓（2020）「乳児保育Ⅱにおける授業評価－保育士と看護師の他職種連携及び実務家教員による実践－」『横浜女子短期大学紀要』第35号.

⑸ 坂本洋子・一色都代（2004）『ぶどうの木』，幻冬舎.

⑹ 文部科学省（2018）「実務家教員の登用促進について」（https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo4/043/siryo/_icsFiles/afieldfile/2018/08/03/1407795_3.pdf.2022.1.8閲覧）.

⑺『読売新聞』，2021年11月22日，朝刊.

⑻ 実務家教員COEプロジェクト（2020）『実務家教員への招待 人生100年時代の新しい「知」の創造』，学校法人先端教育機構 社会情報大学院大学出版部，P.102.

⑼ 厚生労働省（2020）「新型コロナウイルス感染症の発生に伴う指定保育士養成施設の対応について」，厚生労働省子ども家庭局保育課.

How to Effectively Utilize the Practical Experience of Practitioner Teachers
— Consideration from the Message of Students —

Masato TAKAHASHI

【abstract】

Three years have passed since the author became a teacher with practical experience in child welfare. During this time, I have been emphasizing practical education to convey various issues in the field of child welfare by utilizing my work experience in the classroom. However, when a student pointed out that my classes were specialized in conveying practical experience, I decided to take the opportunity to reflect on my own classes. In this paper, I conducted a questionnaire survey of second-year students in the Department of Childcare to obtain their evaluation of the practical experience I have shared in my classes. Based on the evaluation, I discussed how to effectively use the practical experience.

【key words】

Practitioner teachers, Practical experience, Practical episode, Students message